

明治150年記念 後世に伝えたい山口県ゆかりの人物等研究支援事業
審査委員会委員長三宅紹宣広島大学名誉教授による講評

本研究は、成瀬仁蔵が、日本女子大学の開校を実現した過程について、出身地の吉敷の人々とのかかわりを一つの軸として解明したものである。研究に当たっては、成瀬仁蔵記念館や山口県文書館の一次史料を用いて実証的に分析しており、着実な研究成果をあげていると高く評価できる。とりわけ吉敷出身の内海忠勝について、履歴を精査することによって、その役割や成瀬に与えた影響を明らかにしている。さらに内海の紹介によって伊藤博文と面談し、そこから得た示唆が、政界・財界等各方面の賛同を得ることにつながったとしている。伊藤は、工部卿の時代に工学教育に関する建白を行うなど、教育に強い関心を持っていた。伊藤の教育論についてもさらに掘り下げてその関係を分析してみると、伊藤が女子大学開校を支援した内実が、より深く明らかになることが期待できよう。